

# 彙報

会長 田 窪 行 則

## ——常任委員会——

### 2019年度第1回常任委員会

日 時：2019年5月25日（土）13:00～17:00

場 所：上智大学四谷キャンパス 2号館7階言語学専攻共用室

出席者：田窪行則（会長）、桐生和幸、久保智之、千田俊太郎、中谷健太郎、福井直樹、米田信子、渡辺 己（以上、常任委員）、有田節子（事務局長）

オブザーバー：井上 優（編集委員長）、山越康裕（大会運営委員長）、宮本陽一（夏期講座委員長）、金城由美子、早田清冷（以上事務局委員）

（欠席：江口 正、小野尚之、菊澤律子、野田尚史 常任委員、原田なをみ 広報委員長）

#### [報告事項]

- (1) 今期の組織・役員について
  - ・今期の組織・役員が資料によって確認された。
- (2) 今後の大会開催予定について
  - ・以下の予定が報告された。
  - 第158回大会（2019年春季大会）：2019年6月22～23日、一橋大学（大会実行委員長：庵功雄氏）
  - 第159回大会（2019年秋季大会）：2019年11月16～17日、名古屋学院大学（大会実行委員長：今仁生美氏）
  - 第160回大会（2020年春季大会）：（日程未定）、早稲田大学（大会実行委員長：酒井弘氏）
  - 第161回大会（2020年秋季大会）：（日程未定）、東北学院大学（大会実行委員長：豊島孝之氏）
  - 第162回大会（2021年春季大会）：（日程未定）、神奈川大学（大会実行委員

長：片岡喜代子氏）

- (3) 2019年度科学研究費研究成果公開促進費について
  - ・研究成果公開促進費（国際情報発信強化）に応募したが、不採択であったことが報告された。
- (4) 各種委員会からの報告
  - ・本彙報の各委員会の項目を参照。
- (5) 事務局からの報告
  1. 『言語研究』の公開入札について  
昨年度と同様、今年度も実施の予定である。
  2. 大阪北部地震・西日本豪雨・北海道胆振東部地震の被災者に対する会費免除について  
2018年度中の申請は5件、会費免除は2019年3月までとする。
  3. 会費滞納者への督促について  
昨年度末は会員が微増となり、今年度の督促については、あらためて検討を行う。
  4. 今年度のメルマガスケジュールについて  
今年度のメールマガジンの配信予定内容を確認した。
  5. CIPL文献リスト作成作業について  
前年度に引き続き、文献リスト作成を平子達也氏に依頼することが報告された。文献リスト作成にあたって一部文献（雑誌、紀要、図書）の入手または閲覧が困難であるという問題点が指摘された。
  6. 日本学術振興会学振賞について  
下地理則氏（九州大学准教授）を推薦した。
  7. 日本学術振興会育志賞について  
該当者がなく推薦を見送ることが報告された。
  8. 人間文化研究機構日本研究国際賞について  
該当者がなく推薦を見送ることが報告された。
- (6) 聴覚障害を有する会員への支援について
  - ・第158回大会で2件の手話通訳支援を行うことが報告された。
- (7) 言語の多様性に関する啓蒙・教育プロ

ジェクト（採否）について

- ・5件の申請について、メール審議により2件を採択としたことが報告された。
- (8) 人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会の活動について
  - ・人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（Gender Equality Association for Humanities and Social Sciences (GEAHSS)）の活動費として分担金を負担する意向であることが確認された。

[審議事項]

- (1) 「日本語学会大会発表賞」規程変更について
  - ・発表賞選考部会員のうち、大会運営委員2名の任期を共に1年半とする変更を検討し、それを承認した。
- (2) 2018年度決算について
  - ・2018年度決算書について検討を行い、それを承認した。
- (3) 2019年度予算について
  - ・2019年度予算について審議し、予算案を作成した。
- (4) 聴覚障害を有する会員への支援について
  - ・「聴覚障害を有する会員の支援に関する申し合わせ」の改定について、継続審議とすることを決定した。
- (5) 倫理規程・行動規範の整備について
  - ・倫理綱領作成WGの提案に基づき、倫理綱領案と倫理委員会規程案を作成した。
- (6) 2019年度科学研究費補助金研究成果公開促進費（国際情報発信強化、研究成果公开发表）の応募について
  - ・今年度も申請することが確認された。申請内容については、継続審議とする。
- (7) 日本語学会からの各種学術賞への推薦について
  - ・できる限り学会として推薦を行っていくことを決定した。
- (8) 「言語学オリンピック」への学会としての関わり方について
  - ・学会として支援を行うかどうかを検討するため、常任委員2名で「言語学オリ

ピック」支援に関わる実務について調査を行うことを決定した。

- (9) 評議員選挙の選出方法について
  - ・評議員の地区別の定数割り当てについて検討を行っていくことを決定した。

## ——評議員会——

### 2019年度第1回評議員会

日時：2019年6月23日（土）10:00～12:30

場所：一橋大学国立キャンパス 東1号館 1305

出席者：田窪行則（会長）、時崎久夫、野村益寛、小野尚之、小泉政利、後藤 斉、那須川訓也、庵 功雄、伊藤たかね、井上優、生越直樹、風間伸次郎、北原久嗣、窪田晴夫、長屋尚典、西村義樹、野田尚史、長谷川信子、林 徹、早津恵美子、福井玲、松本 曜、渡辺 己、江畑冬生、呉人恵、斎藤 衛、佐久間淳一、玉岡賀津雄、新田哲夫、堀江 薫、町田 健、有田節子、梶 茂樹、金水 敏、佐々木冠、定延利之、沈 力、千田俊太郎、林 範彦、藤代 節、益岡隆志、宮本陽一、由本陽子、吉田 豊、米田信子、桐生和幸、塚本秀樹、江口 正、久保智之、下地理則（以上、評議員49名）

委任状：21名

オブザーバー：上野善道（顧問）、上山あゆみ、加藤重広（会計監査委員）、山越康裕（大会運営委員長）、原田なをみ（広報委員長）、金城由美子、早田清冷（以上、事務局委員）

議事に先立ち、開催校を代表し庵功雄氏から挨拶が行われた。

[報告事項]

- (1) 今期の組織・役員について
    - ・今期の組織・役員が資料によって確認された。
  - (2) 今後の大会開催予定について
    - ・以下の予定が報告された。
- 第159回大会（2019年秋季大会）：11月

- 16～17日、名古屋学院大学（大会実行委員長：今仁生美氏）
- 第160回大会（2020年春季大会）（日程未定）、早稲田大学（大会実行委員長：酒井弘氏）
- 第161回大会（2020年秋季大会）（日程未定）、東北学院大学（大会実行委員長：豊島孝之氏）
- 第162回大会（2021年春季大会）（日程未定）、神奈川大学（大会実行委員長：片岡喜代子氏）
- 第163回大会（2021年秋季大会）（日程未定）、沖縄国際大学（大会実行委員長：西岡敏氏）
- (3) 2019年度科学研究費研究成果公開促進費について
- ・研究成果公開促進費(国際情報発信強化)に応募したが、不採択であったことが報告された。
- (4) 各種委員会からの報告
- ・本彙報の各委員会の項目を参照。
- (5) 事務局からの報告
1. 『言語研究』の公開入札について  
5月末に入札および開札を行った結果、昨年度と同様、今年度も『言語研究』の印刷を中西印刷に委託することが決定した。
  2. 大阪北部地震・西日本豪雨・北海道胆振東部地震の被災者に対する会費免除について  
2018年度中の申請は5件、会費免除は2019年3月までとする。
  3. 今年度のメルマガスケジュールについて  
今年度のメールマガジンの配信予定内容を報告した。
  4. 言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクトの事後評価について  
2018年度成果報告書、会計報告書に基づき事後評価を行ったことが報告された。
  5. CIPLへの代表者および文献リスト作成作業について  
前年度に引き続き、文献リスト作成を平子達也氏に依頼することが報告された。

- 文献リスト作成にあたって一部文献（雑誌、紀要、図書）の入手または閲覧が困難であるという問題点が指摘された。
6. 日本学術振興会育志賞について  
該当者がなく推薦を見送ることが報告された。
  7. 日本学術振興会学振賞について  
下地理則氏(九州大学准教授)を推薦した。
  8. 日本学術振興会育志賞について  
該当者がなく推薦を見送ることが報告された。
  9. 人間文化研究機構日本研究国際賞について  
該当者がなく推薦を見送ることが報告された。
- (6) 言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクト（採否）について
- ・5件の申請について、2件を採択としたことが報告された。

〔審議事項〕

- (1) 倫理綱領・倫理委員会規程の整備と会則変更について **【別記1】**
  - ・倫理綱領案と倫理委員会規程案について検討し、加筆・修正を行った上で承認された。あわせて倫理委員会設置に伴う会則変更について賛成多数で承認された。
- (2) 2018年度決算について **【別表1参照】**
  - ・2018年度決算案について説明がなされた後、上山あゆみ・加藤重広会計監査委員より適正との報告があり、全会一致で原案通り承認された。
- (3) 2019年度予算について **【別表2参照】**
  - ・2019年度予算案について検討を行った結果、全会一致で原案通り承認された。
- (4) 評議員選挙の選出方法について
  - ・評議員の地区別の定数割り当ての廃止について、継続審議とすることを決定した。
- (5) 「日本言語学会大会発表賞」規程変更について **【別記2】**
  - ・発表賞選考部会員のうち、大会運営委員2名の任期を共に1年半とする変更が承認された。
- (6) 聴覚障害を有する会員の支援に関する

申し合わせについて

- ・手話通訳支援について、打合せ（1時間まで）を従事時間に含めることが承認された。
- (7) 2020年度科学研究費補助金研究成果公開促進費（国際情報発信強化、研究成果公開発表）の応募について
  - ・昨年同様応募を行うこと、夏期講座に関する応募を検討することが承認された。
- (8) 日本言語学会からの各種学術賞への推薦について
  - ・学会としてできる限り推薦を行う方針が承認された。
- (9) 「言語学オリンピック」への学会としての関わり方について
  - ・学会で実施可能な支援内容についての調査を行っていく方針が承認された。

### ——編集委員会——

- (1) 『言語研究』第158号（2020年9月刊行予定）では、「日本語方言の形態音韻論」というテーマで特集論文を募集する。原稿締め切りは2019年12月31日。
- (2) 2018年度の『言語研究』への投稿は60件（再投稿を含む）、掲載論文は14本で採択率は23%となった。

### ——大会運営委員会——

#### 2019年度第1回大会運営委員会

日 時：2019年4月7日（日）11:00～16:00

場 所：一橋大学 国立キャンパス

出席者：山越康裕（大会運営委員長）、金善美（副委員長）、下地理則（副委員長）、伊藤さとみ、尾谷昌則、小野 創、小磯花絵、中村 渉、成田広樹、林 範彦、堀 博文、宮地朝子（大会運営委員）

[報告事項]

- (1) 第157回大会（京都大学）の終了報告が大会運営委員長よりなされた。
- (2) 第158回大会（一橋大学）に関する準

備状況が大会運営委員長より報告された。

[審議事項]

- (1) 第158回大会における研究発表の採否について審議した。応募用紙の審査結果に基づき、口頭発表49件（応募88件、受理86件）、ワークショップ3件（応募3件）、ポスター発表5件（応募8件）を採択することとした。  
※なお、ポスター発表に1件、当日の発表辞退が生じたため、大会終了後にプログラムより削除した。
- (2) プログラムの編成を行った。口頭発表は7会場7本（移動10分）とし、各発表の振り分け、会場担当の委員ならびに司会者候補を決定した。
- (3) 大会実行委員長より提案されたシンポジウム・ワークショップ・口頭発表・ポスター発表会場、受付、書店展示、保育室、休憩室、懇親会などの各種会場の設定について検討を行い、決定した。
- (4) ポスター発表の活性化について議論を重ね、今後も継続して審議することとした。

### ——広報委員会——

- ・学会ウェブサイトの学会からのお知らせ（大会情報、論文賞、発表賞など）や学会関連情報（公募情報、研究会情報など）を随時更新した。
- ・学会ウェブサイトの「関連学会一覧」の大規模な更新を行った。
- ・日本言語学会第158回大会の評議員会での決議に基づき、学会ウェブサイトの「日本言語学会会則等」のセクションにおいて、次の三点の更新を実施した。
  - (i) 日本言語学会会則への、新たに批准された第21条（倫理委員会に関する条項）の追加
  - (ii) 「倫理綱領」の掲載
  - (iii) 「倫理委員会規程」の掲載

## ——夏期講座委員会——

- ・2019年10月1日に委員が交代する。新委員は、渡辺 己(委員長), 本多 啓, 田中真一(夏期講座2020実行委員長), 千田俊太郎, 内堀朝子, 木山幸子。
- ・夏期講座2020は、2020年8月24日(月)から8月29日(土)まで神戸大学六甲台第2キャンパスで開催。詳細は、年末年始を目途に学会のHPに掲載する。参加申し込みは2020年4月開始を予定。

## ——学会賞選考委員会——

### 2019年度第1回学会賞選考委員会

2019年5月21日～24日, メール審議  
[審議事項]

(1) 発表賞選考部会の規程改正について  
2019年度第1回評議員会の項目を参照。

なお, 上記の規程改正以外の, 学会賞(論文賞及び発表賞)の選考に係る報告は, 2019年度分をまとめて次号(第157号)に掲載する。

## ——事務局——

### 2018年度会計監査

日 時: 2019年5月24日(金) 13:00～17:00

場 所: 日本言語学会事務支局(中西印刷学会フォーラム)

出席者: 上山あゆみ, 加藤重広(以上会計監査委員), 田窪行則(会長), 有田節子(事務局長), 国料尚子(事務支局)

上山あゆみ, 加藤重広両委員により2018年度決算書と関係書類について監査が実施された。

【別記 1】

## 日本言語学会倫理綱領

日本言語学会は、言語学の研究・教育および学会運営にあたって依拠すべき倫理上の基本原則と理念を「日本言語学会倫理綱領」として定める。

言語学の調査・研究は、他のあらゆる学問と同様、社会の信頼と理解の上に成り立っている。日本言語学会会員は、本綱領にもとづいて、言語学研究および教育における倫理的な問題について十分配慮しなければならない。

研究者が、社会的責任と倫理、人権の尊重やプライバシーの保護への配慮などの基本的原則を忘れては、社会的信頼を得ることはできない。会員は、調査・研究上関わりを持つ個人および集団の尊厳を侵害するような行為は慎まなければならない。さらに、自らの研究によって起こりうる社会的影響について十分に認識しなければならない。

本学会会員は、言語学研究の進展および社会の信頼に応えるために、本綱領を遵守しなければならない。

### 第 1 条

〔公正と信頼の確保〕 会員は、言語学の研究・教育を行うに際して、また学会運営にあたって、公正を維持し、社会の信頼を損なわないよう努めなければならない。

### 第 2 条

〔目的と研究手法の倫理的妥当性〕 会員は、「言語系学会連合研究倫理に関するガイドライン」に従って、研究目的と研究手法の倫理的妥当性を確保しなければならない。

### 第 3 条

〔差別の禁止〕 会員は、思想信条・性別・性的指向・年齢・出自・宗教・民族的背景・障害の有無・社会的地位などに関して差別的な取り扱いをしてはならない。

### 第 4 条

〔ハラスメントの禁止〕 会員は、セクシュアルハラスメント、アカデミックハラスメント、パワーハラスメントなどのハラスメントにあたるいかなる言動・行為もしてはならない。

### 第 5 条

〔研究資金の適正な取扱い〕 会員は、研究資金を適正に取り扱わなければならない。

### 第 6 条

〔調査・研究成果の剽窃・盗用・捏造の禁止〕 会員は、研究のオリジナリティを尊重し、剽窃・盗用・データの捏造・改ざんや二重投稿をしてはならない。また、調査・研究を複数の研究者が共同で、あるいは他者の協力を得て行う場合、その実施上の役割分担や責任の所在及びその成果が公表される場合の著作権等について十分な合意形成をしておかななければならない。

### 第 7 条

〔プライバシーの保護と人権の尊重〕 会員は、言語研究に必要な調査・実験等を実施するにあたって、また研究成果の公表や教育活動にあたって、個人のプライバシーの保護と人権の尊重に最大限留意しなければならない。

### 第 8 条

〔研究成果の公表〕 会員は、研究の公益性と社会的責任を自覚し、研究成果の公表に努め、社会的還元留意しなければならない。

### 第 9 条

〔相互批判・相互検証〕 会員は、互いの研究活動・成果を尊重するとともに、開かれた態度で学術的な相互批判・相互検証に努めなければならない。

### 付則

日本言語学会は、言語学の研究・教育における倫理的な問題に関する質問・相談などに応じ、また、綱領違反が疑われる行為に対して適切な対応をとるために「日本言語学会倫理委員会」をおく。

本綱領は 2019 年 6 月 22 日より施行する。

本綱領の変更は、日本言語学会評議員会の議を経ることを要する。

## 倫理委員会規程

### 第1条 (目的)

本「倫理委員会」(以下、「委員会」と称する)は「日本言語学会倫理綱領」にもとづき設置されるものである。本委員会は、本学会員に対して研究・教育・学会活動等における倫理にかかわる啓発をおこなうとともに、個別の倫理的な問題に関する学会への質問と相談を受け付け、会長へ報告し、会長からの付託・諮問を受けて学会としての対応について協議する。

### 第2条 (委員会構成)

- 1 委員長は、会長が兼務する。
- 2 副委員長を置く。副委員長は、会長が指名する。副委員長は委員長の命を受けて、責任を持って委員会を運営する。
- 3 委員は、委員長が副委員長と協議の上、評議員及び会員から7名を選出し、委員長が指名し、評議員会で承認する。
- 4 委員の任期は1年とする。ただし、委員の再任はさまたげない。

### 第3条 (職務)

- 1 委員会は、「日本言語学会倫理綱領」の内容について、広く会員への周知と啓発に努める。
- 2 委員会は、本学会員の研究・教育・学会活動等における倫理的な問題に関する学会への質問と相談を受け付け、会長に報告する。
- 3 委員会は、倫理的な問題に関して、会長の付託・諮問を受け、「日本言語学会倫理綱領」にもとづき、必要に応じて調査委員会を立ち上げ、他の委員会・常任委員会等と連携しつつ、学会としての対応を協議する。調査委員会については、別に定める。
- 4 委員会は、協議結果を会長に報告する。会長からの指示を受けて、質問・相談に対する学会としての回答・通知等をおこなう。
- 5 委員会は、「日本言語学会倫理綱領」の内容を必要に応じて見直し、検討結果を会長に報告する。
- 6 委員は、職務において知り得た情報に関し、守秘義務を負う。

### 第4条 (事務担当)

倫理委員会の職務に伴う事務は、学会の事務局が担当する。

### (附則)

本規程の改定は、評議員会の議を経るものとする。

(2019年6月22日 評議員会承認)

○会則の改定1：第3章「役員」第11条に倫理副委員長，倫理委員を追加。

《旧》

第11条  
 本会に次の役員を置く。  
 会長……1名  
 事務局長……1名  
 事務局委員……若干名  
 常任委員……若干名  
 評議員……約70名  
 編集委員長……1名  
 編集委員……若干名  
 大会運営委員長……1名  
 大会運営委員……若干名  
 広報委員長……1名  
 広報委員……若干名  
 夏期講座委員長……1名  
 夏期講座委員……若干名  
 学会賞委員長……1名  
 学会賞委員……若干名  
 顧問……若干名  
 会計監査委員……2名

《新》

第11条  
 本会に次の役員を置く。  
 会長……1名  
 事務局長……1名  
 事務局委員……若干名  
 常任委員……若干名  
 評議員……約70名  
 編集委員長……1名  
 編集委員……若干名  
 大会運営委員長……1名  
 大会運営委員……若干名  
 広報委員長……1名  
 広報委員……若干名  
 夏期講座委員長……1名  
 夏期講座委員……若干名  
 学会賞委員長……1名  
 学会賞委員……若干名  
倫理副委員長……1名  
倫理委員……7名  
 顧問……若干名  
 会計監査委員……2名

○会則の改定2：会則 第3章「役員」第21条として倫理委員会の項目を追加。

《旧》

第19条

夏期講座委員長と夏期講座委員は、夏期講座委員会を構成し、日本言語学会夏期講座の企画・運営を行う。

- 2 夏期講座委員長は、会長が個人会員中より指名委嘱する。任期は2年とする。
- 3 夏期講座委員長は、会長の要請により常任委員会に出席し、諮問に応ずるものとする。
- 4 夏期講座委員は、夏期講座委員長が会長と協議のうえ、個人会員中より指名委嘱する。

第20条

学会賞委員長と学会賞委員は、学会賞委員会を構成し、日本言語学会学会賞の選考を行う。

- 2 学会賞委員長は、会長が個人会員中より指名委嘱する。任期は3年とする。
- 3 学会賞委員長は、会長の要請により常任委員会に出席し、諮問に応ずるものとする。
- 4 学会賞委員は、学会賞委員長が会長と協議のうえ、個人会員中より指名委嘱する。

第21条 顧問は、会長および評議員会の諮問に答える。

- 2 顧問は、任期を終えた会長を以てこれに当てる。

《新》

第19条

夏期講座委員長と夏期講座委員は、夏期講座委員会を構成し、日本言語学会夏期講座の企画・運営を行う。

- 2 夏期講座委員長は、会長が個人会員中より指名委嘱する。任期は2年とする。
- 3 夏期講座委員長は、会長の要請により常任委員会に出席し、諮問に応ずるものとする。
- 4 夏期講座委員は、夏期講座委員長が会長と協議のうえ、個人会員中より指名委嘱する。

第20条

学会賞委員長と学会賞委員は、学会賞委員会を構成し、日本言語学会学会賞の選考を行う。

- 2 学会賞委員長は、会長が個人会員中より指名委嘱する。任期は3年とする。
- 3 学会賞委員長は、会長の要請により常任委員会に出席し、諮問に応ずるものとする。
- 4 学会賞委員は、学会賞委員長が会長と協議のうえ、個人会員中より指名委嘱する。

第21条

倫理委員長、倫理副委員長、倫理委員は、倫理委員会を構成し、倫理綱領に基づき、日本言語学会の倫理的諸課題について検討する。

- 2 倫理委員長は、会長が兼任する。
- 3 倫理副委員長は、会長が指名する。
- 4 倫理委員は、会長兼委員長と副委員長が協議のうえ、個人会員中より指名委嘱する。

第22条 顧問は、会長および評議員会の諮問に答える。

- 2 顧問は、任期を終えた会長を以てこれに当てる。

(以下「第〇条」の部分の数字を変更。)

(2019年6月22日修正案可決。)

## 【別記2】「日本語学会大会発表賞」規程の変更

## 《旧》

(目的・名称)

第1条 日本語学会の若手会員の研究を奨励し、学会全体の学術水準の向上を図るために、「日本語学会大会発表賞」(以下「発表賞」という。)を設ける。

(授賞対象)

第2条 発表賞は、学部生・大学院生(年齢制限なし)または40歳以下の会員を筆頭かつ主たる発表者とする大会の口頭発表またはポスター発表のうち、特に優れていると認められた発表に対して授与する。

(発表賞選考部会)

第3条 発表賞の選考のために、学会賞選考委員会に「発表賞選考部会」(以下「選考部会」という。)を設ける。

2 選考部会員および部会長は、学会賞選考委員長が会長と協議のうえ、指名委員を委員とする。部会員のうち1名は大会運営委員とする。選考部会の構成と選考の具体的な方法については別途内規を定める。

3 選考部会員の任期は毎年4月から翌年3月までの1年間とし、原則として大会運営委員長以外は期を連続しての再任はできない。

(選考過程)

第4条 選考部会は、実際に発表を聞いて審査を行う審査員を個人会員の中から選び、学会賞選考委員長に報告する。当該大会において発表賞の受賞対象となりうる発表の発表者は審査員にならない。

2 発表1件につき3名の審査員が審査を行う。3審査員は選考部会から指示された発表について審査を行い、結果を選考部会に報告する。

4 選考部会は、審査員からの報告に基づき授賞候補発表を選考し、学会賞選考委員会に報告する。学会賞選考委員会は選考部会からの報告に基づき、授賞発表を決定し、会長に報告する。

5 選考部会および学会賞選考委員会は、選考に際し、必要に応じて有識者から学術的な意見を聴取することができる。この場合、選考部会および学会賞選考委員会は意見を聴取した者の氏名を学会賞選考委員会および会長に報告しなければならない。

(中略)

(2011年6月18日制定)

(2012年6月16日修正案可決)

(2012年11月24日修正案可決)

(2015年11月28日修正案可決)

## 《新》

(目的・名称)

第1条 日本語学会の若手会員の研究を奨励し、学会全体の学術水準の向上を図るために、「日本語学会大会発表賞」(以下「発表賞」という。)を設ける。

(授賞対象)

第2条 発表賞は、学部生・大学院生(年齢制限なし)または40歳以下の会員を筆頭かつ主たる発表者とする大会の口頭発表またはポスター発表のうち、特に優れていると認められた発表に対して授与する。

(発表賞選考部会)

第3条 発表賞の選考のために、学会賞選考委員会に「発表賞選考部会」(以下「選考部会」という。)を設ける。

2 選考部会員および部会長は、学会賞選考委員長が会長と協議のうえ、指名委員を委員とする。部会員のうち2名は大会運営委員(うち1名は大会運営委員長)とする。選考部会の構成と選考の具体的な方法については別途内規を定める。

3 選考部会員の任期は、2名の大会運営委員については1年半とし、それ以外の委員については毎年4月から翌年3月までの1年間とする。

(選考過程)

第4条 選考部会は、実際に発表を聞いて審査を行う審査員を個人会員の中から選び、学会賞選考委員長に報告する。当該大会において発表賞の受賞対象となりうる発表の発表者は審査員にならない。

2 発表1件につき3名の審査員が審査を行う。3審査員は選考部会から指示された発表について審査を行い、結果を選考部会に報告する。

4 選考部会は、審査員からの報告に基づき授賞候補発表を選考し、学会賞選考委員会に報告する。学会賞選考委員会は選考部会からの報告に基づき、授賞発表を決定し、会長に報告する。

5 選考部会および学会賞選考委員会は、選考に際し、必要に応じて有識者から学術的な意見を聴取することができる。この場合、選考部会および学会賞選考委員会は意見を聴取した者の氏名を学会賞選考委員会および会長に報告しなければならない。

(中略)

(2011年6月18日制定)

(2012年6月16日修正案可決)

(2012年11月24日修正案可決)

(2015年11月28日修正案可決)

(2019年6月22日修正案可決)

【別表 1】2018 年度日本語学会決算

自 2018 年 4 月 至 2019 年 3 月 (単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	12,769,000	刊 行 費	2,338,804
雑 誌 売 上	654,200	発 送 費	360,160
科学研究費補助金	436,098	事 務 委 託 費	4,406,400
科学研究費補助金利息	2	大 会 関 係 費	2,717,514
預 金 金 利	636	評 議 員 会 費	212,328
大会関係収入	2,113,000	常 任 委 員 会 費	657,168
広 告 料	0	編 集 委 員 会 費	186,750
寄 付 金	0	大 会 運 営 委 員 会 費	490,705
雑 益	0	広 報 委 員 会 費	306,000
基金から繰入	2,000,000	夏 期 講 座 委 員 会 費	60,034
夏期講座準備金返納	836,670	学 会 賞 選 考 委 員 会 費	0
		事 務 局 費	1,096,415
		学 会 賞 費	100,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト ( 公 募 型 ) 費	500,000
		夏 期 講 座 経 費	0
		言 語 系 学 会 連 合 費	50,000
		C I P L 負 担 金	120,000
		C I P L 言 語 学 文 献 一 覧 編 集 補 助 費	171,558
		通 信 費	484,789
		消 耗 品 費	167,059
		雑 費	14,788
		名 簿 作 成 費	0
		選 挙 関 係 費	0
		税 理 士 顧 問 料	334,800
		法 人 税	70,000
		予 備 費	135,126
		( 基 金 へ の 繰 入 )	
		選 挙 関 係 積 立 金	200,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト ( 公 募 型 ) 積 立 金	500,000
		夏 期 講 座 積 立 金	0
収 入 合 計	18,809,606	支 出 合 計	15,680,398
前 期 繰 越 金	5,743,793	次 期 繰 越 金	8,873,001
計	24,553,399	計	24,553,399

## ◇収入内訳（単位：円）

## 会費

国内通常会員	10,852,000
国内維持会員	40,000
国内学生会員	1,081,000
国内団体会員	518,000
国内賛助会員	30,000
在外通常会員	196,000
在外学生会員	52,000
合 計	12,769,000

## 雑誌売上

書店販売	650,200
松香堂書店（取り次ぎ業務委託）	398,200
丸善雄松堂	170,100
紀伊國屋書店	81,900
事務局販売	4,000
合 計	654,200

## 科学研究費補助金

436,098

## 科学研究費補助金利息

2

## 預金金利

636

## 大会関係収入

大会参加費	1,887,000
156 回大会	1,048,000
157 回大会	839,000
大会出店料	220,000
156 回大会 1 スペース 1 日（2 社）	10,000
1 スペース 2 日（10 社）	100,000
2 スペース 2 日（1 社）	20,000
157 回大会 1 スペース 2 日（7 社）	70,000
2 スペース 2 日（1 社）	20,000
予稿集売上	500
託児関係収入	5,500
合 計	2,113,000

## 広告料

0

## 寄付金

0

## 雑益

0

## 基金から繰入

2,000,000

## 夏期講座準備金返納

836,670

◇支出内訳（単位：円）

刊行費	印刷部数 各号共に2,000部			
	内 訳	154 (276 p.) 号	155 号 (150 p.)	計 (426 p.)
印刷費		1,490,400	810,000	2,300,400
抜刷代		28,404	10,000	38,404
合 計		1,518,804	820,000	2,338,804

※組版・校正料は印刷費に含む

発送費

『言語研究』一斉発送費	154 号	180,080
	155 号	180,080
合 計		360,160

事務委託費

2018年4月分～2019年3月分  
 日本言語学会と中西印刷株式会社により交わされた事務委託内容の覚書に基づく業務の代金

4,406,400

大会関係費

内 訳	第 156 回	第 157 回	計
プログラム印刷費	108,000	108,000	216,000
予稿集作成費	138,240	181,440	319,680
その他印刷費 / 備品	93,711	78,563	172,274
プログラム発送費	157,629	162,696	320,325
その他発送費	19,830	17,396	37,226
大会費	885,900	376,249	1,262,149
講師謝金等	116,340	70,000	186,340
託児関係費	15,896	12,664	28,560
手話通訳謝礼	0	93,360	93,360
大会実行委員長経費補助	30,000	30,000	60,000
ノートテイキング補助	0	0	0
応募フォーム管理費	10,800	10,800	21,600
合 計	1,576,346	1,141,168	2,717,514

評議員会費

会議費（年2回） 212,328

**常任委員会費**

旅費（年2回）	653,820
会議費（年2回）	3,348
合 計	657,168

**編集委員会費**

旅費（出張校正等）	63,490
英文校閲費	2,500
J-STAGE 投稿査読システム費	50,760
アルバイト費（編集補助）	70,000
合 計	186,750

**大会運営委員会費**

旅費（年2回）	404,284
会議費（年2回）	25,921
プログラム作成謝金	60,500
合 計	490,705

**広報委員会費**

ホームページ保守管理委託費	162,000
英文校閲費	24,000
webmaster 経費補助	120,000
合 計	306,000

**夏期講座委員会費**

旅費	60,034
----	--------

**学会賞選考委員会費**

	0
--	---

**事務局費**

旅費（会計監査、事務局委員出張、人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会、国際言語学会議、倫理規程等作成ワーキング等）	477,795
会議費（会計監査）	8,640
英文校閲費（会長挨拶）	9,500
資料印刷費	480
事務局長、事務局委員活動費	600,000
合 計	1,096,415

**学会賞費**

論文賞副賞	50,000
発表賞副賞	50,000
合 計	100,000

多様性プロジェクト（公募型）費	500,000
夏期講座経費	0
言語系学会連合費	50,000
CIPL 負担金	120,000
CIPL 言語学文献一覧編集補助費	171,558

**通信費**

切手購入、通常発送費	35,624
みずほ銀行ビジネス Web 使用料	38,880
会費請求送料	126,036
会費督促送料	18,286
オンラインクレジット決済手数料	130,984
自動引落手数料	53,713
送金手数料	68,824
残高証明発行手数料	1,506
『言語研究』追加・抜刷・バックナンバー送料	10,586
その他	350
合 計	484,789

**消耗品費**

振替用紙印刷費	52,741
封筒印刷費	93,960
事務用品費	20,358
合 計	167,059

**雑費**

前年度決算未計上額	14,788
-----------	--------

**税理士顧問料**

顧問料	194,400
年末調整・法定調書作成	32,400
決算料	108,000
合 計	334,800

**法人税**

法人市民税	50,000
法人府民税	20,000
合 計	70,000

**予備費**

夏期講座特別講演謝金	101,646
夏期講座特別講演生花代	33,480
<hr/>	
合 計	135,126

**基金への繰入**

多様性プロジェクト	500,000
選挙	200,000
<hr/>	
合 計	700,000

◇ 2018 年度決算 予算・実績対照表

収入 (単位：円)

科目	予算	実績	対予算差異
会費	11,500,000	12,769,000	1,269,000
雑誌売上	900,000	654,200	△ 245,800
科学研究費補助金	800,000	436,098	△ 363,902
科学研究費補助金利息	0	2	2
預金金利	500	636	136
大会関係収入	1,700,000	2,113,000	413,000
広告料	0	0	0
寄付金	0	0	0
雑益	0	0	0
基金から繰入	2,000,000	2,000,000	0
夏期講座準備金返納	0	836,670	836,670
収入合計	16,900,500	18,809,606	1,909,106
前期繰越金	5,743,793	5,743,793	0
合計	22,644,293	24,553,399	1,909,106

支出 (単位：円)

科目	予算	実績	対予算差異
刊行費	3,000,000	2,338,804	661,196
発送費	400,000	360,160	39,840
事務委託費	4,406,400	4,406,400	0
大会関係費	4,300,000	2,717,514	1,582,486
評議員会費	300,000	212,328	87,672
常任委員会費	900,000	657,168	242,832
編集委員会費	700,000	186,750	513,250
大会運営委員会費	800,000	490,705	309,295
広報委員会費	500,000	306,000	194,000
夏期講座委員会費	200,000	60,034	139,966
学会賞選考委員会費	250,000	0	250,000
事務局費	900,000	1,096,415	△ 196,415
学会賞	200,000	100,000	100,000
多様性プロジェクト(公募型)費	500,000	500,000	0
夏期講座経費	1,500,000	0	1,500,000
言語系学会連合費	50,000	50,000	0
C I P L 負担金	120,000	120,000	0
CIPL 言語学文献一覽編集補助費	200,000	171,558	28,442
通信費	800,000	484,789	315,211
消耗品費	350,000	167,059	182,941
雑費	0	14,788	△ 14,788
名簿作成費	0	0	0
選挙関係費	0	0	0
税理士顧問料	334,800	334,800	0
法人税	70,000	70,000	0
予備費	1,163,093	135,126	1,027,967
(基金への繰入)			
選挙関係積立金	200,000	200,000	0
多様性プロジェクト(公募型)積立金	500,000	500,000	0
夏期講座積立金	0	0	0
支出合計	22,644,293	15,680,398	6,963,895
次期繰越金	0	8,873,001	△ 8,873,001
合計	22,644,293	24,553,399	△ 1,909,106

## ◇資産勘定

2019年3月31日(単位:円)

借方	金額	貸方	金額
事務支局		前受会費	
現金	27,728	国内通常	108,000
みずほ銀行口座	11,840,763	国内学生	12,000
郵便振替口座	501,209	在外通常	7,000
未収金*	398,200	前受購読料	144,900
クレジットカード(通信販売形式)	14,000	未払金**	3,625,004
		源泉税預り金	11,995
		次期繰越	8,873,001
計	12,781,900	計	12,781,900

\* 未収金は当該年度内の収入の回収が間に合わなかった場合の科目。

2018年度決算の未収金の内訳は以下の通り。

内訳	金額
雑誌売上(松香堂分)	398,200
合計	398,200

\*\* 未払金は当該年度内の支出が間に合わなかった場合の科目。

2018年度決算の未払金の内訳は以下の通り。

内訳	金額
『言語研究』154号印刷費	1,490,400
『言語研究』154号抜刷代	28,404
『言語研究』154号発送費	180,080
『言語研究』154号封筒代	27,540
『言語研究』155号印刷費	810,000
『言語研究』155号抜刷代	10,000
『言語研究』155号発送費	180,080
『言語研究』155号封筒代	27,540
『言語研究』出張校正旅費	61,160
事務委託費3月	367,200
大会発表応募フォーム	21,600
ホームページ保守管理委託費	162,000
税理士顧問料1~3月	48,600
税理士決算料	108,000
税理士年末調整報酬	32,400
法人税	70,000
合計	3,625,004

◇基金 決算

基金 損益計算書

(単位：円)

取 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
期首特別会計（前期繰越）	10,604,919	一般会計へ支出	2,000,000
一般会計から繰入	700,000		
定期預金金利	325		
収入合計	11,305,244	支出合計	2,000,000
		次期繰越金	9,305,244
計	11,305,244	計	11,305,244

基金 資産勘定

2019年3月31日 (単位：円)

借 方	金 額	貸 方	金 額
みずほ銀行定期預金口座	5,500,000	積立金	9,305,244
京都銀行定期預金口座	3,805,244		
計	9,305,244	計	9,305,244

○基金内訳（目的別）

2019年3月31日 (単位：円)

記念大会積立金	1,000,664
夏期講座積立金	2,800,921
危機言語プロジェクト積立金	702,995
e-ジャーナル積立金	2,500,664
言語学普及積立金	500,000
多様性プロジェクト（公募型）積立金	1,800,000
選挙積立金	0

計 9,305,244

○基金内訳（銀行別）		2019年3月31日（単位：円）	
銀行名	預かり番号	名目	金額
京都銀行	003	記念大会積立金	1,000,664
みずほ銀行	051	夏期講座積立金	700,000
みずほ銀行	065	〃	500,000
みずほ銀行	067	〃	200,000
京都銀行	005	〃	1,400,921
みずほ銀行	039	危機言語プロジェクト積立金	300,000
京都銀行	001	〃	402,995
京都銀行	004	e-ジャーナル積立金	1,000,664
みずほ銀行	044	〃	500,000
みずほ銀行	037	〃	1,000,000
みずほ銀行	047	言語学普及積立金	500,000
みずほ銀行	050	多様性プロジェクト（公募型）積立金	300,000
みずほ銀行	059	〃	500,000
みずほ銀行	064	〃	500,000
みずほ銀行	066	〃	500,000
		計	9,305,244

【別表 2】 2019 年度日本言語学会予算

自 2019 年 4 月 至 2020 年 3 月

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	12,000,000	刊 行 費	3,000,000
雑 誌 売 上	600,000	発 送 費	400,000
科学研究費補助金	0	事 務 委 託 費	4,406,400
科学研究費補助金利息	0	大 会 関 係 費	4,000,000
預 金 金 利	500	評 議 員 会 費	300,000
大会関係収入	1,700,000	常 任 委 員 会 費	900,000
広 告 料	0	編 集 委 員 会 費	700,000
寄 付 金	0	大 会 運 営 委 員 会 費	800,000
雑 益	0	広 報 委 員 会 費	500,000
基金からの繰り入れ	0	夏 期 講 座 委 員 会 費	200,000
夏期講座準備費返納	0	学 会 賞 選 考 委 員 会 費	250,000
		倫 理 委 員 会 費	500,000
		事 務 局 費	900,000
		学 会 賞 費	200,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 費	1,000,000
		夏 期 講 座 経 費	0
		言 語 系 学 会 連 合 費	50,000
		C I P L 負 担 金	120,000
		CIPL 言 語 学 文 献 一 覧 編 集 補 助	200,000
		通 信 費	800,000
		消 耗 品 費	350,000
		雑 費	0
		選 挙 関 係 費	0
		税 理 士 顧 問 料	334,800
		法 人 税	70,000
		予 備 費	1,492,301
		(基金への繰入)	
		選 挙 関 係 積 立 金	200,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 積 立 金	500,000
		夏 期 講 座 積 立 金	500,000
		情 報 保 障 関 係 積 立 金	500,000
		基 金 預 け 替 え	0
収 入 合 計	14,300,500	支 出 合 計	23,173,501
前 期 繰 越 金	8,873,001	収 支 差 額 (次 期 繰 越 金)	0
合 計	23,173,501	合 計	23,173,501

## 第 158 回大会

期日 2019年6月22日(土)・23日(日)

会場 一橋大学

公開シンポジウム 6月23日(日) 13:50～16:50(兼松講堂)

「アスペクト研究の新しい視座としての「テイル」研究—日本語学から一般言語学への貢献—」

司会：庵 功雄

- |      |                      |       |
|------|----------------------|-------|
| (S1) | 趣旨説明                 | 庵 功雄  |
| (S2) | 事態のアスペクチュアルな意味と『テイル』 | 森山 卓郎 |
| (S3) | エビデンスシャリティから見た『テイル』  | 定延 利之 |
| (S4) | 日本語教育文法から見た『テイル』     | 庵 功雄  |

指定討論者：岩本 遠億

## 口頭発表

—第1日(6月22日(土)) 13:00～17:40—

## ・A会場

- |      |        |   |                               |
|------|--------|---|-------------------------------|
| (A1) | 13:00～ | On the negative contraction of Old English verbs                        | XIE Tao                       |
| (A2) | 13:40～ | Sar(u) expression and transitive/intransitive alternation in Kesen      | Fumikazu NIINUMA              |
| (A3) | 14:20～ | 日本語における「V1+V2」型複合動名詞の意味構造に関する一考察  | 李 慧                           |
| (A4) | 15:00～ | 分散形態論における日本語の語彙的複合動詞  | 中村早百合                         |
| (A5) | 15:50～ | タイ語関係代名詞 <i>thii</i> 使用に関わる制約   | 杉浦 滋子                         |
| (A6) | 16:30～ | 日本語とブラジル・ポルトガル語における時間を表す複文節に見られる主節時基準現象の実態—話し言葉コーパスにおけるトキ節・Quando節を中心に— | コーブルアンワチャラチャイ<br>スネス・コスタ・ハイッサ |
| (A7) | 17:10～ | 談話の能格性は文法の能格性を形成するか?  | 角田 太作                         |

## ・B会場

- |      |        |  |                   |
|------|--------|--|-------------------|
| (B1) | 13:00～ | 琉球沖永良部語の衰退要因に関する一考察                      | 横山 晶子<br>富岡 裕     |
| (B2) | 13:40～ | 宮古語来間方言における日琉祖語の痕跡                       | ヤロシ アレクサンドラ       |
| (B3) | 14:20～ | 北琉球沖縄語伊平屋方言の動詞・形容詞について                   | CARLINO Salvatore |
| (B4) | 15:00～ | 南琉球八重山語石垣島大浜方言における焦点標識とモダリティ             | 占部 由子             |
| (B5) | 15:50～ | 言語類型論的観点から見た宮崎県椎葉村尾前方言における形容詞経験者構文の格標示   | 松岡 葵              |
| (B6) | 16:30～ | 局所的有生性による日本語の能動態・受動態選択：東京方言・東北方言・近畿方言の比較 | 小川 雅貴             |
| (B7) | 17:10～ | 方言データから見たアスペクト形式の派生機能                    | 鴨井 修平             |

## ・C会場

- |      |        |  |       |
|------|--------|--|-------|
| (C1) | 13:00～ | 東京方言における心理動詞と主格属格交替現象について                | 佐久間 篤 |
| (C2) | 13:40～ | 動詞の記述性における Act-Nucleus と Troponymy       | 美馬 未歩 |
| (C3) | 14:20～ | 現代日本語の受身文における「ニ」と「カラ」の交替—構文と動詞の吸引度の観点から— | 鄭 若曠  |

(C4)	15:00 ~	話し言葉の経年変化の定量的記述—「昭和話し言葉コーパス」「日本語日常会話コーパス」「日本語話し言葉コーパス」を用いて—	佐野真一郎
(C5)	15:50 ~	事態の発生を扱う副詞—「事態発生副詞」と「非事態発生副詞」を中心に—	鄭 柄叟
(C6)	16:30 ~	日韓における事実条件を表す形式の対照分析—「たら」と「-cssteni」を中心に—	尹 聖樂
(C7)	17:10 ~	条件構文素性に基づいた条件構文の分析	森 創摩
◦ D 会場			
(D1)	13:00 ~	インターフェイスから見る Left Branch Extraction	塩原佳世乃
(D2)	13:40 ~	Labeling under minimal search: Determining “single- vs. multiple-specifier” configurations	Hisatsugu KITAHARA Samuel D. EPSTEIN T. Daniel SEELY
(D3)	14:20 ~	The N’-deletability and the non-availability of genitive subject in the Tujia language	Shao-Ge WANG Hideki MAKI
(D4)	15:00 ~	On the ellipsis of subject- and object-oriented adverbs in Japanese	YAMASHITA Hideaki
(D5)	15:50 ~	Two types of echo answers in Chinese	Ting-Chi WEI
(D6)	16:30 ~	日中語の動詞反復応答に関する理論的考察	長田 詳平 胡 亜敏 若松 弘子 于 一楽
(D7)	17:10 ~	中国語の非典型的目的語構文における名詞の役割に関する一考察	
◦ E 会場			
(E1)	13:00 ~	アラビア語チュニス方言の受動構文の意味	熊切 拓
(E2)	13:40 ~	反リンキング構文としての非人称構文：swarm 交替の場合	中村 渉
(E3)	14:20 ~	カムサ語における名詞抱合の概要	蝦名 大助
(E4)	15:00 ~	日本語における拗音の表出制限	渡部 直也
(E5)	15:50 ~	フィジー語の叙述所有について	岡本 進
(E6)	16:30 ~	マルマ語における精巧表現	藤原 敬介
(E7)	17:10 ~	ジンポー語の音節内部構造	倉部 慶太
◦ F 会場			
(F1)	13:00 ~	Embedded moods in Japanese	Akitaka YAMADA
(F2)	13:40 ~	Composing paratactically associated items: Intonation and particles	Yurie HARA Mengxi YUAN
(F3)	14:20 ~	Manipulating $\pi$ -geometry of (pronominal) zibun in Kansai Japanese and its relevance to imposters	Satoshi ITO Koji SHIMAMURA Ayaka SUGAWARA
(F4)	15:00 ~	Bare quotatives as embedded speech acts	Satoshi TOMIOKA Jooyoung KIM
(F5)	15:50 ~	タメニ節への助詞ハの付与の意味論的分析	田村 早苗
(F6)	16:30 ~	極性疑問が潜伏している名詞	山泉 実
(F7)	17:10 ~	統語と音のインターフェイスにおける日本語否定極性項目の認可	安井 翼

## ◦ G 会場

- |      |         |   |                             |
|------|---------|---|-----------------------------|
| (G1) | 13:00 ~ | 実験データから捉え直すノルウェー語の主体移動表現                    | 谷川みずき                       |
| (G2) | 13:40 ~ | トルコ語における過去形の反復義務構文                          | 鈴木 唯                        |
| (G3) | 14:20 ~ | 形態素への分割は左紡錘状回・下側頭回の活動を選択的に変化させる：日本語動詞の脳磁図研究 | 太田 真理<br>大関 洋平<br>アレック・マランツ |
| (G4) | 15:00 ~ | 日本語の派生語の視覚的処理における書記形態分解と漢字活性化               | 中野 陽子<br>岸本 健太              |
| (G5) | 15:50 ~ | 日本手話における非手指副詞、動詞、目的語の語順について                 | 上田由紀子<br>内堀 朝子              |
| (G6) | 16:30 ~ | 愛媛県大島宮窪手話における一致動詞の空間使用                      | 矢野羽衣子<br>松岡 和美              |
| (G7) | 17:10 ~ | 日本手話における時制と連動した非手指アスペクトマーカの予備的研究            | 松岡 和美                       |

## ワークショップ

—第2日（6月23日（日））10:00～12:00—

## ◦ ワークショップ1

- |        |                           |               |
|--------|---------------------------|---------------|
| (W1)   | クラウドソーシングを用いた言語分析         | 企画者・司会者：浅原 正幸 |
| (W1-1) | クラウドソーシングによる形態論情報付与付き辞書整備 | 岡 照晃          |
| (W1-2) | クラウドソーシングによる述定・装定の用法分析    | 西内 沙恵         |
| (W1-3) | クラウドソーシングによる語義調査          | 加藤 祥          |
| (W1-4) | クラウドソーシング結果の可視化手法と統計処理    | 浅原 正幸         |

## ◦ ワークショップ2

- |        |   |               |
|--------|---|---------------|
| (W2)   | 構文ネットワークの可能性と課題                         | 企画者・司会者：尾谷 昌則 |
| (W2-1) | ル動詞を構文論の観点から見直す                         | 尾谷 昌則         |
| (W2-2) | 感情感覚形容詞の構文間ネットワーク：話者認識タイプを中心に           | 井本 亮          |
| (W2-3) | 古代日本語ラル構文のネットワーク                        | 志波 彩子         |
| (W2-4) | 経路句を伴わない非選択目的語使役移動構文：英語動詞 wipe の場合に注目して | 貝森 有祐         |

## ◦ ワークショップ3

- |        |  |                      |
|--------|--|----------------------|
| (W3)   | 計算心理言語学—概要と展望—   | 企画者・司会者：折田 奈甫, 大関 洋平 |
| (W3-1) | 形態：レキシコンと形態処理の計算モデル  | 大関 洋平                |
| (W3-2) | 統語：Computational models of sentence-level language comprehension | Douglas ROLAND       |
| (W3-3) | 意味：カテゴリ文法・意味計算・文処理   | 窪田 悠介                |
| (W3-4) | 談話：代名詞選択の形式化から計算心理言語学を考える  | 折田 奈甫                |
| (W3-5) | 自然言語処理：「柔らかく」なった自然言語処理   | 松林優一郎                |

## ◦ ポスター発表

—第2日（6月23日（日））11:30～13:00—

- |      |                                 |                       |
|------|---------------------------------|-----------------------|
| (P1) | 日本手話と日本語における自他の対応—対照言語学的研究に向けて— | 安東明珠花<br>庵 功雄<br>岡 典栄 |
|------|---------------------------------|-----------------------|

- |      |   |        |
|------|---|--------|
| (P2) | ベルシア語の書き言葉における非人称可能文—tavānestan と šodan の異同—    | 五十嵐小優粒 |
| (P3) | 「動詞性名詞+ダ」の時間性：「発表者は先ほど会場に到着でした」は言えるか？           | 古澤 純   |
| (P4) | 福岡方言における音韻句の形成要因の比較                             | 松浦 年男  |
| (P5) | 環境音からみた日本語言語行動の性質と適性環境音選択規則の考察—カフェにおける女子大学生の場合— | 松崎 奈々  |

◇退 会

国内通常会員：72名  
在外通常会員：4名  
国内学生会員：54名  
国内団体会員：2名  
132名

◇入 会

国内通常会員：41名  
在外通常会員：4名  
国内学生会員：40名  
85名



◇本学会の顧問（元会長）の梅田博之氏は、2019年7月1日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

◇本学会の評議員、常任委員、夏期講座小委員会委員長を務められた西光義弘氏は、2019年7月23日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

## 2019 年度役員

## 【会長】

田窪行則

## 【特別編集委員】

(未定)

## 【顧問】

上野善道, 影山太郎, 梶茂樹, 国広哲弥,  
窪蘭晴夫, 柴谷方良, 早田輝洋, 松本克己

## 【大会運営委員会】

山越康裕 (委員長), 伊藤さとみ, 尾谷昌則,  
小野創, 金善美, 小磯花絵, 下地理則, 中村  
渉, 成田広樹, 林範彦, 堀博文, 宮地朝子

## 【常任委員】

江口正, 小野尚之, 菊澤律子, 桐生和幸,  
久保智之, 千田俊太郎, 中谷健太郎, 野田尚史,  
福井直樹, 米田信子, 渡辺己

## 【広報委員会】

小泉政利 (委員長), 石田尊 (英語ページ  
webmaster), 那須川訓也, 広瀬友紀, 藤本  
真理子, 堀博文 (危機言語担当), 松浦年男 (日  
本語ページ webmaster)

## 【事務局】

有田節子 (事務局長), 金城由美子, 早田清冷

## 【夏期講座委員会】

宮本陽一 (委員長), 小野創, 田中真一, 千田  
俊太郎, 本多啓, 渡辺己

## 【評議員 (70名)】

[北海道] 奥 聡, 時崎久夫, 野村益寛 [東北]  
小野尚之, 小泉政利, 後藤斉, 那須川訓也 [関  
東] 庵功雄, 石井透, 伊藤たかね, 井上優,  
遠藤喜雄, 大津由紀雄, 大堀壽夫, 生越直樹,  
風間伸次郎, 河内一博, 菊地康人, 北原久嗣,  
工藤真由美, 窪蘭晴夫, 小林正人, 滝浦真人,  
田中伸一, 長屋尚典, 西村義樹, 野田尚史,  
長谷川信子, 林 徹, 早津恵美子, 福井直樹,  
福井玲, 松本曜, 渡辺己 [中部] 江畑冬生,  
呉人恵, 斎藤衛, 佐久間淳一, 澤田治美,  
杉崎鉦司, 玉岡賀津雄, 新田哲夫, 堀江薫,  
町田健 [近畿] 有田節子, 影山太郎, 梶茂樹,  
金水敏, 佐々木冠, 定延利之, 沈 力, 千田  
俊太郎, 林範彦, 藤代節, 益岡隆志, 宮本陽一,  
由本陽子, 吉田和彦, 吉田豊, 米田信子 [中  
国・四国] 桐生和幸, 塚本秀樹, 辻星児,  
宮崎和人, 和田学 [九州・沖縄] 青木博史,  
江口正, 狩俣繁久, 久保智之, 下地理則

## 【学会賞選考委員会】

久保智之 (委員長), 庵功雄, 江口正, 桐生和幸,  
中谷健太郎, 福井直樹, 松本曜

## 【倫理委員会】

田窪行則 (委員長), 由本陽子 (副委員長),  
小磯花絵, 笹栗淳子, 定延利之, 林 徹,  
早津恵美子, 松井理直, 渡辺己

## 【会計監査委員】

上山あゆみ, 加藤重広

## 【編集委員会】

井上優 (委員長), 青柳宏, 井川壽子, 岸本秀樹,  
小林正人, 佐々木冠, 定延利之, 鍋島弘治朗,  
藤井洋子, 由本陽子, 米山聖子